

教育研究業績書

所属	職名	氏名	学位
幼児教育学科	教授	増淵千保美	博士(社会学)

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
(1)教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 1.社会的養護 I	平成21年4月～ 現在に至る	学生との意見交換のツールとしての質問・考察シートを配布し、そこに寄せられた考察や質問事項について次回の授業でパワーポイント等を通して紹介・返答し対話的な授業を目指している。また、様々な視覚教材を用いて、学生の身近な暮らしや子どもを取り巻く社会問題に関心が持てるような授業づくりに取り組んでいる。
2.保育実習指導(保育所・施設)	平成21年4月～ 現在に至る	実習指導では、自主実習から単位実習、就職実習、現場実践までの一連の流れを考えながら、実習に出る前の事前学習や実習時の目標・ねらい、実習計画の作成、さらには省察を行い実践力の向上を養うために、パワーポイントによる授業や視覚教材を用いて、理解を深められるよう取り組んでいる。また、学生の課題に応じて一人ひとりへの個別面談を行い、フォローアップ体制を組んでいる。実習後は、事例検討を通してグループディスカッションの場を多数設け、現場で実践の省察や意見交換ができる対話力の育成に努め、2年間で学生自らが「実践しながら学ぶ」姿勢と専門性を身につけられるよう取り組んでいる。
3.子ども家庭支援論	令和2年9月～現在 に至る	家庭支援の理論と実践を繋げるために、優れた実践や活動から系統的に学ぶ。保護者支援、家庭の暮らしを踏まえた連続性のある保育について、グループワークや対話シートを用いながら学生の思考力を向上させるための授業を進めている。また、学びが深まった段階で外部講師を招聘し、現場の具体的な実践から学び、それを理論と結びつけて思考する道筋をつくっている。さらに、実践力の向上を目指して、連絡帳の書き方や保護者への伝え合いの方法、つぶやきノートの作成などについて、学生自ら作業をしながら習得していけるよう工夫している。
4.専門研究(子育て支援:福祉系)ゼミ	平成26年4月～ 現在に至る	専門研究(子育て支援コース)では、保育や子育て支援の現場での学外学修、子どもの育ちに必要不可欠な自然と食をテーマとした野外活動について、学生が主体となり企画・実施し、毎回、省察を行っている。その学びを生かして、子どもの料理教室やひとり親世帯への支援活動などのボランティアとして、課外活動への参加にも繋げている。また、後期には1年間の研究成果について、ゼミ生全員で研究報告書を作成し、学内で発表している。そのための文献紹介や報告書の内容検討について、学生の主体的な意見を引き出し、学びを深め、就職後の実践に活かしていきけるよう指導を行っている。

5.乳児保育 I	平成31年4月～ 現在に至る	とくに0歳～2歳児期までの発達の順序性(理論)を踏まえ、実践的な学びにつながるよう授業を設計している。例えば、調乳やオムツ替え、沐浴実習、さらには乳児を育てる母親に子連れで講話をしていただき、実際に学生が乳児を抱っこをさせていただくなど、体験的に学ぶ機会を設け、理論と実際を結びつけて能動的に学べるよう工夫している。また、附属こども園保育棟との連携により、乳児保育で学んだことを保育ボランティアや自主実習などを通して実際に確認していただけるよう系統的に学ぶ道筋をついている。
(2)作成した教科書・教材・参考書 1.『社会保障・社会福祉大辞典』(旬報社、共著)	平成16年8月	「子育て費用の援助」について、児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当等、これまで行われてきた調査・統計・資料をもとに、子育て家庭の経済的支援の現状と今後の取り組むべき課題について執筆し、社会的養護の授業において活用している。
2.『児童養護問題の構造とその対策体系～社会的養護・社会福祉援助技術～』(自費出版)	平成21年4月	博士論文(再掲)をコンパクトにまとめ、社会的養護の授業では、「児童養護問題の構造」について理解を深め、社会福祉援助技術や児童福祉の授業では、社会保障の一環としての児童福祉の位置と役割・機能、保育所保育における対応策を中心に講義を行った。
3.『実習の手引き』(幼児教育学科実習委員会、共著)	平成21年4月 (毎年改定)	実習指導の授業担当者が分担執筆を行い、実習指導の副読本として使用している。2年間の中で充実した実習が送れるよう、保育・教育実習の内容、免許・資格、実習園の決定的な過程・方法、教育・教育実習の準備と事前学習、実習記録の取り方、指導計画の書き方、実習中のサポート、事後学習について、系統的に論じている。本書は、実習先にも配布し、現場と連携した教育・指導を行っている。
4.『幼教ノススメ』(幼児教育学科、共著)	平成21年4月 (毎年改定)	初年次教育のテキストとして、幼児教育学科教員で分担執筆を行い、2年間の充実した学生生活、学習活動の一助となるようオリエンテーションやフレッシュャーズセミナー、実習指導、クラスミーティング等で活用している。
5.『実習と保育・幼児教育－実習テキスト』(幼児教育学科実習委員会、共著)	平成30年4月～令和2年3月	実習指導の授業担当者が分担執筆を行い、実習指導の授業の理論的な拠り所となるテキストとして使用している。保育現場で用いられる保育・幼児教育の方法理解、保育・幼児教育における健康、人とのかかわりを育てる保育の実践、子育て支援と教育相談の役割等について論じている。

<p>6.『保育・幼児教育5領域の内容と指導法』(学文社、共著)</p>	<p>平成30年11月</p>	<p>保育所保育指針、幼稚園教育要領等の改定を踏まえて、こどもの主体性を尊重した保育の在り方について学生との学びを深めて行くために、各領域の保育内容と指導法について論じている。「乳児保育と保育内容」については、発達の順序性に沿った子どもの育ちの保障、授乳、食事、排泄、睡眠等の養護をベースにした遊びや活動(保育)の展開、保護者との対話による協力・連携の重要性について論じている。乳児保育Ⅰや保育実習指導の授業で活用している。</p>
<p>7.『保育の中の児童養護—こども家庭支援につなぐ保育とは—』(自費出版、共著)</p>	<p>令和2年3月</p>	<p>「社会的養護Ⅰ」では、社会的養護の対象課題としての児童養護問題について述べ、その根底にある家庭の貧困と差別や貧困を基本的に規定している労働問題にも触れながら、親子が手を離さずに暮らせる社会保障としての保育について論じている。また、「子ども家庭支援論」と合わせて、保育の中で展開している児童養護の実践事例から、子どもと家庭の抱える課題の認識方法と視点、支援のあり方について学びが深められるようまとめた。</p>
<p>(3)教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>1.新任保育士研修</p> <p>2.尚綱大学公開講座での講演</p> <p>3.保育所保育士に対するスキルアップ研修</p> <p>4.保育士会主任研修</p> <p>5.保育所園長会研修</p> <p>6.認定こども園保育教諭に対するスキルアップ研修</p> <p>7.家庭的保育者等現任者研修</p>	<p>平成21年6月</p> <p>平成22年8月</p> <p>平成27年2月</p> <p>平成28年1月</p> <p>平成28年7月</p> <p>平成28年7月～12月</p> <p>平成29年2月</p>	<p>熊本市保育園連盟主催:熊本市内の認可保育所新任保育士100名を対象に、「子どもと家庭の生活問題を捉える視点と枠組み」について論じた。</p> <p>尚綱大学主催:尚綱公開講座において、受講者50名を対象に、「子育て家庭を支える地域福祉活動の視点から」というテーマで論じた。</p> <p>公益財団法人健康福祉推進財団主催:熊本市東区の社会福祉法人大光保育園の保育士20名を対象に「発達障がいの理解」について論じた。</p> <p>熊本市保育園連盟・西部地区保育士会主催:認可保育園・こども園の主任35名を対象に、「地域とともに育つ子どもたち～保育園にできることは?～」について論じた。</p> <p>熊本市保育園連盟中央ブロック主催:熊本市中央ブロックの保育園園長40名を対象に「震災後の子どものケア」について論じた。</p> <p>公益財団法人健康福祉推進財団主催:熊本市西区の社会福祉法人かおるこども園保育教諭25名を対象に5回シリーズで「発達過程に合わせた援助方法の理解と実際」について論じた。</p> <p>熊本県地域型保育連絡協議会主催(熊本県家庭的保育者等現任者研修委託事業):熊本県内の家庭的保育、小規模保育事業に従事する保育士100名を対象に、「保護者支援」について論じた。</p>

8.保育所保育士に対するスキルアップ研修	平成29年2月	公益財団法人健康福祉推進財団主催：熊本県宇城市の社会福祉法人コスモス保育園の保育士15名を対象に「保護者支援」について論じた。
9.尚綱大学公開講座での講演	平成29年8月	尚綱大学主催：尚綱公開講座において、受講者50名を対象に、「子どもと家庭のくらしの現実から乳幼児の保育を考える」というテーマで論じた。
10.認定こども園職員に対する研修	平成29年9月	社会福祉法人幼保連携型認定こども園はつの・遊びの森こども園主催：水保市のはつの・遊びの森こども園職員35名を対象に、「楽しく保育ができるためのこどもから離れた休憩時間」について論じた。
11.熊本産業復興支援プロジェクトフォーラム2018での発表	平成30年3月	熊本大学・熊本地方 COC+推進協議会、熊本県次世代ベンチャー創出支援コンソーシアム主催：民間企業、官公庁・金融機関、大学関係者、一般、学生487名の参加者を対象に、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」「行政・保育施設・養成校の協働した保育環境の質保証」についてポスター発表を行った。
12.主任児童委員会部会研修	平成30年4月	熊本市民生委員児童委員協議会主催：主任児童委員120名に対して、「子どもと家庭の暮らしから乳幼児期の育ちを考える」について論じた。
13.保育研究大会分科会助言・講話	平成30年7月	九州保育三団体協議会、九州社会福祉協議会連合会、社会福祉法人熊本市社会福祉協議会、一般社団法人熊本市保育園連盟主催：第5回九州保育三団体研究大会、公立保育園分科会にて、「公立保育園の役割と課題」について論じた。
14.保育者養成校協会九州ブロックセミナー分科会講演	平成30年8月	一般社団法人保育者養成協議会九州ブロックセミナー主催：「乳児保育」分科会に参加した研究者、保育関係者30名を対象に、「保育士養成課程の改定に臨んで—乳児保育を中心に—」について論じた。
15.保育所保育士に対する研修会	平成30年9月	社会福祉法人はけみや保育園主催：熊本市北区はけみや保育園職員23名を対象に、子どもの人権に関する「幼児期からのトランスジェンダーへの理解」について論じた。
16.児童養護施設等中堅職員に対する研修	平成30年10月	熊本県養護協議会主催：熊本県内の児童養護施設等中堅職員現任訓練において、参加者42名を対象に、「アセスメント・自立支援計画・ジェノグラム・エコマップの作成とケースをめぐる家族の関係性や活用できる社会資源」について論じた。
17.保育所保育士に対する研修	平成30年10月	社会福祉法人天明福祉会主催：熊本市南区の中緑保育園保育士等30名を対象に「愛着形成の大切さ」について論じた。
18.シンママ応援フォーラム2019における講演	平成31年1月	反貧困ネットワーク主催：熊本県内の司法書士、弁護士、教育・福祉関係者、一般市民100名を対象に、「熊本におけるシングルマザー世帯の現状とシンママ熊本応援団の取り組み・課題」を論じた。

19.熊本産業復興支援プロジェクトフォーラム2019での発表	平成31年2月	熊本大学・熊本地方 COC+推進協議会、熊本県次世代ベンチャー創出支援コンソーシアム主催：民間企業、官公庁・金融機関、大学関係者、一般、学生474名の参加者に対して、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」「安心して働きながら子育てできる熊本プロジェクト」についてポスター発表を行った。
20.認定こども園保育教諭に対する研修	平成31年3月	学校法人幼保連携型認定こども園ほくぶ幼稚園主催：熊本市北区のこども園保育教諭30名に「子どもから離れた休憩時間の確保」について論じた。
21.保育・教育・福祉専門職に対する研修	平成31年3月	くまもと子育て虐待防止ネットワーク研究会主催：熊本県内の保育士・教員・福祉専門職12名を対象に、「熊本におけるシングルマザー世帯の現状と課題」について論じた。
22.女性医師に対する研修	令和1年8月	一般社団法人 熊本県保険医協会主催：女性医師部会20名を対象に、「熊本におけるシングルマザー世帯の現状とシンママ応援の取り組み・課題」について論じた。
23.教育関係者に対する研修	令和1年9月	教育ネットワークユニオン主催：熊本県内高校・大学教職員20名を対象に、「シングルマザーと子ども達の貧困」について論じた。
24.医療・福祉関係者に対する研修	令和1年10月	熊本県社会保障推進協議会主催：定期総会にて医療・福祉関係者50名を対象に、「シンママと子どもたちの暮らしと社会保障の課題」について論じた。
25.企業ニーズと大学シーズに関するラウンドテーブル	令和1年10月	熊本市経済観光局産業部産業振興課新産業振興班主催：地元企業の代表15名を対象に「ひとりで子育てするママも安心して働ける仕事、一緒につくりませんか?!」というテーマで論じた。
26.弁護士、司法書士等に対する講演	令和1年11月	ハミング法律事務所主催：熊本県内の弁護士、司法書士、医療・福祉・教育関係者等100名を対象に、子どもの貧困と憲法について論じた。
27.シンママ応援オーラム2020における講演	令和2年1月	反貧困ネットワーク主催：熊本県内の司法書士、弁護士、教育・福祉関係者、一般市民50名を対象に、「みんなで作るシンママ応援団」というテーマで、子どもの貧困の背後にあるシングルマザー世帯の労働と生活問題及び今後の市民活動および公的制度の役割・課題について論じた。
26.保育士等のキャリアアップ研修	令和2年2月～11月	公益財団法人健康福祉推進財団主催：熊本県内の保育士・保育教諭115名を対象に「乳児保育分野」の講義を3回に渡って行った。具体的には「乳児保育の意義」「乳児への適切な関わり」「乳児の発達家庭に応じた保育内容」について論じた。

27.保育園における園内研修	令和2年4月～現在に至る	社会福祉法人はけみや保育園主催:『保育の中の児童養護—こども家庭支援につなぐ保育とは—』(自費出版、共著)を活用しながら、年間を通じて定期的に保育事例検討を行い、保育実践検討および研修を行っている。
28. 青少年健全育成・福祉活動従事者に対する研修	令和2年11月	YMCA熊本東部センター・Yメンズクラブ主催:青少年健全育成・福祉活動従事者等15名に対して、子どもの貧困をテーマに、シングルマザー世帯の現状とその応援体制について論じた。
29. 地方議員セミナー	令和2年11月	大阪社会保障推進協議会主催:地方議員60名に対し、子どもの貧困と保育の役割について論じた(リモート開催)。
30. 企業等の事業主に対する研修	令和2年12月	熊本県中小企業家同友会主催:中小企業等の事業主、薬剤師、福祉関係者、弁護士等30名に対し、シングルマザーの労働と生活について論じた(リモート開催)。
(4)その他教育活動上特記すべき事項		
1. 乳幼児保育研究会の開催	平成27年4月～現在に至る	尚綱子育て研究センター主催 熊本県内の保育者を対象に「乳幼児保育研究会」を毎月開催し、保育実践の報告・検討を通して保育の質向上に取り組んでいる。これらの研究・活動を通して、学生教育や課外活動の機会につなげている。
2.シングルマザーと子どもへの相談対応・行政機関等への同行支援、食糧支援、人権を守る学習活動	平成29年4月～現在に至る	シンママ熊本応援団における約65世帯のシングルマザーと子どもへの相談対応や行政機関・専門職との連携、毎月の食料支援、女性と子どもの人権に関する学習会の開催、親子キャンプや茶話会の開催などを通して、ひとり親家庭の孤立を防止し、社会的な対応策につなげる取り組みを行っている。尚綱子育て研究センターの地域連携事業としても位置づけ、学生ボランティアやゼミ生による食糧支援や子どもの遊び保障への活動参加など、大学教育及び課外の学びの場の提供にも繋がっている。
3.就学困難な学生・生徒に対する経済的支援及び生徒・児童に対する学習支援、学校・専門職等との連携活動	平成31年4月～現在に至る	こどものゆめまもる基金において、就学費用の捻出が困難な高校生や大学生等に対して、一人ひとり丁寧に相談に応じ、家庭の経済状況や各種奨学金、救済制度の利用等を検討してもなおかつ資金が不足する場合に、緊急措置として就学資金の給付を行い就学の継続を支援している。また、学校に行くことができない小・中学生に対する学習支援を行い、遊びを通して関係を作りながら学習面でのつまずきを的確に見極め、再度学び直しができるよう定期的に学習会を行い、スクールソーシャルワーカーや学校の対応につなげている。尚綱子育て研究センターの地域連携事業としても位置づいている。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻、号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
(著書)					

1.21世紀の医療・介護労働—国民的大連携をめざして—	共著	平成12年12月	本の泉社	国民医療研究所編、野村 拓、高木和美、増淵千保美、他20名	pp.117-128
2.ケアマネジャー609人の証言—介護保険を変えよう—	共著	平成13年7月	桐書房	野村拓、増淵千保美・弟子丸孝子、他6名	pp.32-98、pp.100-137
3.これからの配食サービス—高齢者の食を地域で支える—	共著	平成16年10月	かもがわ出版	高齢者生活支援研究会編、中山徹、藤井伸生、斎藤功子、増淵千保美、他4名	pp.122-136
4.社会保障・社会福祉大辞典	共著	平成16年8月	旬報社	事典刊行委員会編、増淵千保美、他事典刊行委員	pp.14-16
5.児童養護問題の構造とその対策体系—児童福祉の位置と役割—	単著	平成20年3月	高菅出版		
6.「大量失業社会」の労働と家族生活—筑豊・大牟田150人のオーラルヒストリー—	共著	平成24年6月	大月書店	都留民子、高林秀明、堀木昌子、増淵千保美、唐鎌直義	pp.108-126
7.保育・幼児教育5領域の内容と指導法	共著	平成30年11月	学文社	柴田賢一、森みゆき、増淵千保美、他名12名	pp.18-19
8.保育の中の児童養護—こども家庭支援になが保育とは—	共著	令和2年4月	自費出版	増淵千保美、平田洋介	pp.1-14 pp.45-46
(論文)					
1.現代社会における児童養護問題の構造	単著	平成10年3月	佛敎大学大学院社会学研究科社会学・社会福祉学専攻修士論文		pp.1-62
2.婦人保護事業の縮小問題と地域福祉の課題	単著	平成13年3月	佛敎大学大学院紀要第29号		pp.287-302
3.ひとり親家庭の生活保障と社会福祉の役割・課題～母子世帯の所得保障の側面から～	単著	平成15年3月	佛敎大学大学院紀要第31号		pp.315-331
4.オーストラリアにおける配食サービスについて	共著	平成16年11月	日本家政学会誌Vol.55 No.11	増淵千保美、斎藤功子	pp.895-902
5.子どもと家庭の生活問題の構造とその地域性—「子ども家庭福祉」の対象課題に関する研究—	共著	平成16年12月	県立広島女子大学生活科学部紀要第10号	増淵千保美、高林秀明	pp.106-129

6.児童養護問題における保育問題との共通性・連続性について—歴史的分析を踏まえて—	単著	平成18年3月	佛教大学大学院紀要第34号		pp.263-280
7.虐待事件にみる児童養護問題の階層的・地域的特徴	単著	平成19年3月	佛教大学大学院紀要第35号		pp.225-270
8.児童養護問題の構造とその対策体系—児童福祉の位置と役割	単著	平成19年3月	佛教大学大学院社会学研究科社会学・社会福祉学専攻博士論文		
9.子どものくらしと発達を保障し、健康で働きつづけられるための条件～「生存権」保障の担い手である保育士の健康問題から～	単著	平成23年2月	季刊保育問題研究247号		pp.17-38
10.子育て家庭を支える地域福祉活動の視点から	単著	平成23年4月	尚綱子育て研究センター次世代育成研究児やらい第8巻		pp.17-25
11.女性の労働環境の改善に向けて—保育士の健康と労働・くらしの実態をもとに—	共著	平成24年3月	熊本学園大学附属社会福祉研究所 社会福祉研究所報2012	萩原修子、増淵千保美	pp.67-95
12.保育者の「笑顔」と保育を守る「休憩」保障(上)—「休憩なし」の常態化と見過ごされる健康破壊	単著	平成27年3月	現代と保育91号		pp.128-145
13.保育者の「笑顔」と保育を守る「休憩」保障(下)—事例にみる保育者の24時間	単著	平成27年11月	現代と保育92号		pp.108-125
14.保育者の早期離職における課題—保育者の確保と保育の質の向上を求めて—	共著	平成28年7月	尚綱子育て研究センター次世代育成研究児やらい第13巻	横山博之、増淵千保美、柴田賢一、他2名	pp. 29-51
15.子どもと家庭のくらしの現実から乳幼児の保育を考える—大阪府「子どもと家庭の生活実態調査」をもとに—	単著	平成30年7月	尚綱子育て研究センター次世代育成研究児やらい第15巻別冊		pp.29-46
16.保育における職場環境に関する研究—早期離職予防及び新任育成の視点から—	共著	令和1年7月	尚綱子育て研究センター次世代育成研究児やらい第16巻	増淵千保美・横山博之	pp.121-138

17.「育てる」という視点から見た早期離職予防の課題－職場環境の改善に関する5つの要素と若手保育者の育成－	単著	令和2年10月	尚綱子育て研究センター次世代育成研究児やらい第17巻(1)		pp.29-43
18.保育の課題としての児童養護	単著	令和3年2月	尚綱子育て研究センター次世代育成研究児やらい第17巻(2)		pp.3-14
(学会発表)					
1.家庭崩壊から社会福祉とは何かを問う	単著	平成11年10月	日本社会福祉学会第47回秋季大会(岡山)		
2.地域福祉の課題としての高齢者の健康と生活問題－広島市南区「高齢者のくらしと健康・医療に関する実態調査」から－(その1)	単著	平成12年11月	日本社会福祉学会第48回秋季大会(東京)		
3.ケアマネジャーにみる介護保険制度の矛盾－実態調査をもとに地域福祉の課題として－	単著	平成13年10月	日本社会福祉学会第49回秋季大会(沖縄)		
4. 全国の自治体における高齢者福祉施設およびサービスに関する調査－高齢社会における生活支援サービスのあり方に関する研究その1	共著	平成13年11月	日本家政学会関西支部第23回研究発表会(兵庫)	中山徹、藤井伸生、増淵千保美、他9名	
5. 京都市東九条山王学区におけるケーススタディー－高齢社会における生活支援サービスのあり方に関する研究その2	共著	平成13年11月	日本家政学会関西支部第23回研究発表会(兵庫)	斎藤功子、田中智子、増淵千保美、他9名	
6. 京都市東九条陶化学区におけるケーススタディー－高齢社会における生活支援サービスのあり方に関する研究その3	共著	平成13年11月	日本家政学会関西支部第23回研究発表会(兵庫)	小伊藤亜希子、村田光史、増淵千保美、他9名	
7. 地方自治体における高齢者の生活支援とその圏域に関する研究－高齢社会における生活支援に関する研究その1	共著	平成14年6月	平成14年度日本建築学会近畿支部研究発表会(大阪)	中山徹、藤井伸生、増淵千保美、他6名	

8. 千里ニュータウンでの高齢者を対象としたサービス供給状況について－高齢社会における生活支援に関する研究その2	共著	平成14年6月	平成14年度日本建築学会近畿支部研究発表会(大阪)	田中智子、斎藤功子、増淵千保美、他6名	
9. 京都市東九条におけるケーススタディー－高齢社会における生活支援に関する研究その3	共著	平成14年6月	平成14年度日本建築学会近畿支部研究発表会(大阪)	今津乃理子、森田尋子、増淵千保美、他6名	
10. 食事支援実施地域における単身高齢者の生活実態からの考察－高齢社会における生活支援に関する研究その4	共著	平成14年6月	平成14年度日本建築学会近畿支部研究発表会(大阪)	小伊藤亜希子、村田光史、増淵千保美、他6名	
11. 自治体による高齢者福祉施設整備およびサービス供給とその圏域に関する調査報告－高齢社会における生活支援のあり方に関する研究・その4	共著	平成14年8月	日本家政学会第54回大会(東京)	中山徹、藤井伸生、増淵千保美、他5名	
12. 千里ニュータウンにおける生活支援サービス提供圏域に関する研究－高齢社会における生活支援のあり方に関する研究その5	共著	平成14年8月	日本家政学会第54回大会(東京)	今津乃理子、小伊藤亜希、増淵千保美、他5名	
13. 京都市東九条におけるケーススタディー－高齢社会における生活支援のあり方に関する研究その6	共著	平成14年8月	日本家政学会第54回大会(東京)	斎藤功子、田中智子、増淵千保美、他5名	
14. 会食会に参加、及び配食サービスを受給する単身高齢者の日常生活からの考察－高齢社会における生活支援のあり方に関する研究その7	共著	平成14年8月	日本家政学会第54回大会(東京)	藤井伸生、中山徹、増淵千保美、他5名	
15. 高齢者の食生活の実態と食事支援のニーズ	共著	平成15年6月	平成15年度日本建築学会近畿支部研究発表会(大阪)	小伊藤亜希子、斎藤功子、増淵千保美、他5名	
16. 高齢者に対する食生活支援に関する研究－毎日型配食サービス実施団体への調査より－	共著	平成15年6月	平成15年度日本建築学会近畿支部研究発表会(大阪)	立松麻衣子、田中智子、増淵千保美、他5名	

17. 児童と家庭の生活問題と地域福祉の視点をもった児童福祉の試み—和歌山県御坊市における生活実態調査—	単著	平成15年10月	日本社会福祉学会第51回秋季大会(大阪)		
18. オーストラリアにおける食事支援—配食サービスを中心に(その1)—配食サービスの福祉制度的な位置づけについて	共著	平成15年11月	日本家政学会関西支部第25回研究発表会(大阪)	増淵千保美、斎藤功子、他7名	
19. オーストラリアにおける食事支援—配食サービスを中心に(その2)—サービス供給の地域別特徴について	共著	平成15年11月	日本家政学会関西支部第25回研究発表会(大阪)	増淵千保美、藤井伸生、他7名	
20. 社会福祉協議会による配食サービスについて—毎日型配食サービスの特徴的事例より—	共著	平成16年6月	平成16年度日本建築学会近畿支部研究発表会(大阪)	立松麻衣子、田中智子、中山徹、増淵千保美、他5名	
21. スウェーデンの配食サービス	共著	平成16年8月	日本家政学会第56回大会(東京)	田中智子、中山徹、増淵千保美、他7名	
22. 「大量失業」地域の「生活」と「労働」—福岡県筑豊・大牟田地域の住民調査から	共著	平成23年5月	社会政策学会第122回大会(東京)	都留民子、高林秀明、堀木昌子、増淵千保美、唐鎌直義	
23. 保育施設における子どもから離れた休憩時間の保障—保育者の健康改善・離職防止と保育の質の向上にむけて—	単著	平成29年10月	日本社会福祉学会第65回秋季大会(東京)		
24. ひとり親家庭の生活と願いに寄り添ったサポートとは—母と子の世帯の事例を通して考える—	単著	平成30年6月	日本社会福祉学会九州地域部会第59回研究大会(沖縄)		
25. 保育における職場環境に関する研究(その1)—職場環境と早期離職との関係について—	共著	令和2年3月	第4回日本保育者養成教育学会(広島)	横山博之、増淵千保美	

26. 保育における職場環境に関する研究(その2)―早期離職を予防できる職場環境とは―	共著	令和2年3月	第4回日本保育者養成教育学会(広島)	増淵千保美、横山博之	
27. 乳児保育をめぐる今日的課題―乳幼児の「食」を中心に捉えたトータルな育ちの保障に向けて―	単著	令和3年3月	第5回日本保育者養成教育学会(広島)		
28. 保育者の職場環境および健康に関する調査研究―保育・職場環境と早期離職との関係について―	共著	令和3年3月	第5回日本保育者養成教育学会(広島)	横山博之、増淵千保美	
(外部資金導入実績)					
1. 異世代交流力をもつ保育者育成プログラム	共著	平成21年4月～平成23年3月	文部科学省教育GP	坂本健、増淵千保美、他13名	
2. 安心して働きながら子育てできる熊本プロジェクト	単著	平成27年4月～令和2年3月	文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」	増淵千保美	
3. 保育施設と養成校と連携した新任保育者の早期離職予防活動モデルの開発	共著	平成30年1月～現在に至る	平成29年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究)	横山博之、増淵千保美、柴田賢一、他2名	
(その他)					
1. とともに健康にくらせる仲間づくり・まちづくり「広島市高齢者のくらしと健康・医療に関する実態調査」報告書	共著	平成14年3月	広島市南区老人クラブ連合会	高林秀明、増淵千保美	
2. 和歌山県御坊市「市民の健康とくらし、まちづくりに関する生活実態調査」報告書	共著	平成15年3月	和歌山県御坊市	高林秀明、増淵千保美	
3. 和歌山県御坊市「子どもと家庭のくらしと健康」実態調査報告書	共著	平成16年3月	和歌山県御坊市	高林秀明、増淵千保美	
4. 少子高齢化社会における生活支援システムとコミュニティ形成に関する研究報告書	共著	平成17年3月	平成14～16年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))研究成果報告書	中山徹、斎藤功子、増淵千保美、他8名	pp.58-71

5.「障害児・者とその家族のかかえている生活問題」近江八幡市障害者生活実態調査報告書	共著	平成18年12月	近江八幡市社会福祉協議会	平尾良治、増淵千保美、湯川順子	
6.「発達障害児・者とその家族の生活実態と対策の課題」調査報告書	共著	平成20年3月	滋賀県東近江地域障害児(者)サービス調整会議・発達障害部門	増淵千保美、高林秀明	pp.6-132
7.「子どもたちの健やかな成長をはぐむ保育の向上に向けて—保育士の健康とくらしに関する実態調査」報告書	共著	平成21年3月	熊本保育研究会	増淵千保美、萩原修子	pp.3-97 pp.131-142
8.文部科学省教育GP「異世代交流力をもつ保育者育成プログラム」報告書	共著	平成23年2月	尚綱大学短期大学部幼児教育学科	坂本健、増淵千保美、他13名	
9.すべての子どもたちに教育の機会の平等を—「幼児教育の無償化」を通して考える	単著	令和2年2月	暮らしと自治くまもと第160号		pp.1-2

Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

平成11年4月～現在に至る	日本社会福祉学会会員
平成12年4月～平成14年3月	広島県安佐南区「バリアフリーのまちづくり」委員会委員
平成13年4月～平成21年3月	日本家政学会学会員
平成13年11月～平成15年3月	京都市中京区地域福祉計画策定作業委員
平成15年4月～平成17年3月	広島人権擁護センター「ほっと」(障がい者支援施設等)第三者委員
平成21年4月～令和2年3月	熊本保育研究会代表
平成27年4月～令和2年3月	熊本県地域型保育連絡協議会顧問
平成29年1月～現在に至る	社会福祉法人 ひまわり保育園理事
平成29年4月～現在に至る	シンママ熊本応援団代表理事(シングルマザーと子ども世帯への相談・支援)
平成30年4月～現在に至る	社会福祉法人 はなえみ保育園評議員
平成31年4月～現在に至る	こどものゆめまもる基金理事
平成31年4月～現在に至る	日本保育者養成教育学会会員
令和2年6月～現在に至る	熊本市児童館運営審議会委員
令和2年11月～現在に至る	男女共同参画センター「男女共同参画出前講座」登録講師
令和3年6月～現在に至る	熊本市保育園連盟「立田山野外保育センター」基本計画策定委員会
令和3年9月～現在に至る	熊本市しごと・ひと・まち創生総合戦略検証委員会委員